

出張報告（国際日本研究センター）

1. 出張者 早津恵美子（対照日本語部門）
2. 出張経費 特別教育研究経費
事業名「日本語教育研究の世界的な拠点」の形成
3. 出張日程 平成22年10月13日～平成22年10月17日
4. 訪問先 タイ国チェンマイ市
チェンマイ大学人文学部
Faculty of Humanities, Chiang Mai University, 239
Huay Kaew Rd.
Muang District, Chiang Mai, Thailand 50200

5. 出張業務の概要

(1) 日本学研究会への参加

タイは、古くから日本語教育の実践および日本語研究、そして経済分野など広く日本研究がなされている国のひとつであり、日本研究の全国的な学会や研究会が盛んに行われてきている。そのひとつとして、平成22年10月14～15日にチェンマイ大学人文学部において、日本学研究会が開催された。

**”The 4th Conference for The Japanese Studies Network
-Thailand**

“Rethinking: Japan-Thailand-Mekong Relations—”

経済学、外交など5つのセッションで研究発表が行われ、そのうち一つのセッションが日本語学・日本語教育学の分野であった。タイ国内の諸大学から日本語研究および教育に携わっていらっしゃる多くの先生方および大学院生・学部生の参加があった。12件の発表があり、日本語教育の現場での具体的な問題も多くとりあげられて興味深かった。

また、本学大学院博士後期課程に在籍中のタイ出身の留学生3名（タップ ホン・ナリンさん、ナオサラン・アーパーポーンさん、モンコイチャイ・アッカラチャイさん）もそれぞれの博士論文に向

けての研究成果の一部（日本語学・日本語教育学に関するもの）を口頭発表した。それぞれの発表についてはタイの大学の先生方からいくつかの質問やコメントがあり、日本語ではなくタイ語が母語である方々からの問題点の指摘として、考えさせられる新たな指摘も多く有益であった。

なお、前日13日夕刻には懇親会に参加し、大学関係者とは別に、嘉数勝美氏（国際交流基金東南アジア総局バンコク日本文化センター局長）、青木伸也氏（在タイ日本国大使館広報文化部長 参事官）とも知己を得て、日本への留学希望者の動向などについて伺うことができた。

（2）聞き取り調査[1]—日本語研究・日本語教育—

上述の学会に参加していらした方々のうち、4つの大学の先生方と個別に面談をし、それぞれの大学の日本語研究・日本語教育の事情についてお話を伺った。研究会の場で初めてお目にかかって面談をお願いした先生方もあり、それらの先生方にはあまり長い時間をとっていただけなかったが、あらかじめ面談をお願いしておいた先生方は、各大学における日本語教育の歴史や方針、現在のカリキュラム、講師数（タイ人、日本人）、学生数、卒業者数、卒業後の進路などの資料を用意してくださり、それを中心に多方面のお話をうかがうことができた。また、各大学で使っている日本語教科書（その中には、それぞれの大学で独自に編纂されたものも含まれる）を見せていただき、授業の進め方や宿題やテストの工夫もことも話してくださり、興味深かった。

○カセサート大学

チョンスッチャリッタム・プラニー氏

ナラノン・ソイスダー氏（本学で博士号取得）

○タマサート大学

ウーウォン・ワリントン氏

プラサートスック・キッティ氏

柳沢滴氏（本学で修士号取得）

○チェンマイ大学

カンジャナカルン・ワライポーン

ゴーンジット・サランヤー氏

スアールアン・シリゴーン

チラーヌクロム・ローム氏

パンヨー・ティーラット氏

○プリンス・オブ・ソンクラーク大学

トーンノーク・ニサーコン氏

以上の先生方からのお話を通して、まず日本語研究の面では、日本語についてのタイ国内での研究会や個人研究・共同研究（タイ人と日本人との共同研究も含む）がたいへん盛んだということがわかった。タイ国内で日本語の研究と教育に携わっていらっしゃる先生方と本学教員との共同研究の可能性も感じられた。

日本語教育の実践の面では、各大学の教育の目的と方向性、日本語学習者の動向、学習目的、カリキュラム、コースワーク、使用教材（教材開発を含む）、教員情報、学位などについて、情報を得ることができた。教材面の課題として、日本の社会や文化などを学ぶためのしっかりした教材が少ないことを多くの先生方がおっしゃっていた。

日本語学習者については、日本文化への憧れや日系企業への就職のために日本語を学び始める人が多いという。日本留学を希望する学生・院生が毎年多いこと、そして最近では、現職教員で学位取得（とくに博士）のために留学を希望する先生方が増えているということもわかった。

（3）聞き取り調査[2]—日本研究—

日本語研究・日本語教育関係の先生方のほかに、チェンマイ大学人文学部内に設置されている「日本研究センター」の所長および副所長とも面談を行うことができた。

アタチャク・サタヤーヌラク氏（所長）

中井仙丈氏（副所長）

同センターは2008年に設立され、「総合的な日本研究の普及促進活動」「日本研究の組織化と研究者への支援活動」を推進し、日本文化を紹介する講演会・講習会を行うなど、広く日本社会・文化に関する研究活動を行っており、日本に関する書籍等を約6000点所蔵している。このセンターと本学国際日本研究センターとは、種

々の分野で協働的研究を進めることができるのではないかと思われた。中井氏からも本学との交流の可能性をさぐりたいとの意見をいただいた。

6. まとめ

タイは、日本語教育の歴史が比較的長く、大学で日本語を学ぶ学生も多い。最近は大学院も増えてきているようである。本学への留学生も、かつての留学生課程時代からあり、いわゆる非漢字圏の国からの留学生としては多いほうである。本学の大学院で学んで修士または博士の学位を取得した人たちの多くが、タイのいくつかの大学や国際交流基金の日本語講座で教鞭をとっていることも、今回の聞き取りであらためて認識した。大学院で学んだ日本人学生にも、タイで日本語教育に携わっている人が少なくない。タイの先生方から、本学修了生がタイの日本語教育分野で活躍し信頼も築いてきていることを耳にするのは、嬉しいことであった。

なお、出張期間がタイの大学の休業期間であったため、授業を見学させていただくことや、日本語を学んでいる学生さんと話をすることができなかったのは残念であった。

各大学の先生方から、教科書を含め多くの資料をいただいた。それらは国際日本研究センターで保存する。

以上



日本学研究会 総会①



日本学研究会 総会②



日本学研究会 受付



日本学研究会
日本研究図書 の 展示販売